

清流

復活へ

大和川の挑戦

「日本一汚い川」からの脱却

県は子どもたちに水質改善の大切さを理解してもらったため、小学生を中心に下水道浄化施設の見学学習の拠点「環境学習の拠点」を、今年四月に開設した。このほど訪れた橿原市立晩成小学校(西松美校長)の四年生四十六人の見学の様子を紹介する。

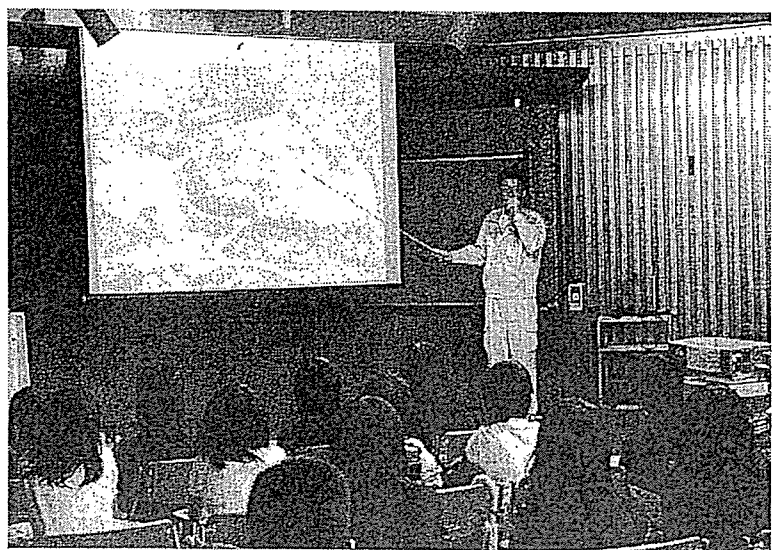
環境学習拠点めぐす

学を受け付けている。見ている。同センターは昭和四十四年六月に供用を開始。主に小学生の見学が多。昨年約三千人が訪れた。春、秋の遠足シーズンが多いという。そこ

影響、そして大和川の現状・水質についても分かりやすく解説。生徒たちは「グイス形式もあって面白かった」「汚れを食べる小さな微生物が水をきれいにしてくれることには驚き」などと好評だった。

大和川の汚れは、生活排水の割合が大きく影響している。「ごみを捨て

県浄化センター



家庭での地道な取り組みとを職員が訴え、「家の水質改善につながる。人にも伝えてください」

浄化センターについての説明を聞く児童ら。大和郡山市額田部南町の県浄化センター

と呼び掛けると、児童らは大きくうなずいていた。

この後、グループに分かれ、最上階展望台や二十四時間稼働の中央管理室、生物反応槽、最終沈殿池などを約一時間半かけて見学。「排水が施設に入ってきて、きれいになるまで十四、五時間」「浄化センターの歩道のレンガは汚泥を焼却した灰をリサイクルしたものだ」。案内役の職員も熱心に説明していた。

「水のことをいっぱい知ることができてよかったです」「魚とかがすみやすい川にしなければ」。児童らはこの日の学習で大きな収穫を得たようだ。毎月一回、下旬に掲載

当記事を奈良新聞社に無断転載することを禁じます。